公表用

（様式第４号）　　**審議会等付属機関　会議概要**

１ 審議会名	上田市公文書館運営協議会
２ 開催日	令和４年１２月２７日
３ 会場	書面審議
４ 出席委員	小平委員、児玉委員、中村委員、相川委員、田中委員
５ 公開･非公開	公　開　・　一部公開　・　非公開
６ 会議概要作成年月日	令和５年１月６日

協　議　事　項　等

１　資料１、２来館者数、運用状況について

（委員）

・【来館者について】１日平均 1.7 人の来館者数、できれば、2.0 人の目標でいきたい。そのためには「上田市公文書館だより」の発行や企画展、「広報うえだ」への情報提供はかかせない事業になる。引き続き、情報提供と企画展示に期待する。

・４、５月は三ケタ台の来館者がいるが、来館者増につながる動きがみえるのかどうかその内訳を知りたい。

・【運用状況について】「寄贈・寄託資料の内容」は、今はまだ少ないので資料名を書けるが、多くなってくるとリストアップすることは困難になってくる。寄贈等の資料は、「別紙」で書き上げられているので、特徴的な資料名を書き上げるだけでよいのではないか。むしろ、寄贈・寄託者名すべてを記名し、そこに寄贈・寄託された点数を書き込んで欲しい。

・いずれ寄贈・寄託資料の目録を作成されることになると思うが、紙ベースにするのかデジタル化したものをベースにするのか、検討しておく必要性があると思う。

（委員）

・歴史的公文書の閲覧申し込み、件数、人数ともに少ないように思えるかも知れないが、妥当の域と思う。歴史公文書の利用環境を整えることは行政の責務と思う。

（委員）

・公文書館という施設の性質上、常時来館者があるということはないと思う。

・タイムリーな企画展を行い、来館者を増やす努力を引き続きお願いしたい。

（委員）

・コロナ禍の中でも開館しているということで、上田市内外の利用者に、調査研究や教育活動等の機会を提供できていることが良かったと思っている。感染対策と閲覧機会の維持を両立させていくことには多くの苦労があるかと思う。困難な中、業務を進めてもらい、感謝する。

・長野大学も感染対策と研究教育の両立を試みている。今年度は教育活動での学生フィールドワークに制限をかけざるを得ない状況も生じてしまったが、時機をみて大学生の引率等ができればと考えている。今後とも、よろしくお願いしたい。

（委員）

・コロナ禍の中、なかなか来館してもらえない状況だと思うが、少しずつ緩和されていくと思うので、回報等で案内し多くの人に来場してもらいたいと思う。

２　資料３、４　移管状況、事業報告について

（委員）

・【移管状況について】的確な判断ができる知識不足のため、移管点数が 10%という数字が少ないのか、このくらいなのか、説明して欲しい。
・【事業報告について】「資料１，２」で少し関係したことに触れている。
（委員）
・保存年数 30 年（かつての永年保存）文書、廃棄対象となったのは、どんな文書なのか。
（委員）
・移管も適切に行われていると思うが、今後、行政文書については公文書館への移管を前提に、年月が経っても文書の内容がすぐに分かるような文書管理が求められると思う。
（委員）
・近現代史資料の中で、戦後期の資料も移管が進んでいる様子がわかり、特にありがたい思いでいる。寄贈や寄託の要望が寄せられている背景には、過疎化の進行によって、現地保存が困難化しているといった要因があると思う。過疎化が進行する中で、各家や自治会等で保管してきた史資料を散逸させない取り組みが重要と考えている。
・日本の戦後史研究も 1960 年代が射程に入り、当方も文科省科研費のプロジェクトで 1970 年代を射程に収めた現代史研究の方法論を考案する共同研究プロジェクトを組んだ。こうした問題意識の研究者が各地にいるので、近現代資料の中でも、最近研究が活性化している 20 世紀後半期の史資料の集積を進めてもらえれば幸いである。
（委員）
・分かりやすく報告してもらい感謝する。
・今後に役に立つ大切な文書の保管をよろしくお願いしたい。

３　その他　運営全般について
（委員）
・上田市公文書館の看板となる地域史料（蚕糸業関係史料、蚕糸業と盛衰をともにした金融業、大正デモクラシー下で花開いた『時報』、自由大学関係史料など）を、すでにそれらの資料を保存している博物館や、学校などとも協議しながら、長期計画のもとに系統的に収集していくことをぜひ進めていってほしいと思っている。そのための人的確保や予算の確保など困難な点が散在しているが、少しずつでもよいので、一歩を踏み出せたら良いとの思いがある。
（委員）
・昭和 44 年『信濃』で町田論文「地租改正・・・」で引用している文書は、今、公文書館にあるのか。Ex. 東前山共有文書、誉田足玉神社蔵、洗馬神社蔵、横尾共有文書、斉藤弥惣太家文書、野倉共有文書など。
（委員）
・歴史研究の専門家だけでなく、一般の方がより多く足を運んでいただける公文書館の運営に期待する。
（委員）
・上田市域の地域史研究について、現在、複数大学の共同研究で、上塩尻地区の調査が進行中で、最近、成果出版があった（『近世日本における市場経済化と共同性　（近世上田領上塩尻村の総合研究）』刀水書房、2022 年）。近現代史料の調査も進んでいると聞いている。公文書館を訪問したいという声もあり、公文書館の情報を伝えていこうと考えている。

公表用

・より広域で史資料の保全を考えると、上記のように、過疎化の進行によって地域資料の現地保存の原則が維持困難になっている家や自治会等も増えており、管理が困難となった家屋・土蔵・倉庫等の中で、史資料が散逸・滅失することを防ぐ仕組みづくりが特に重要と考えている。
・近年はデジタル化が脚光を浴びているが、私自身は、原史料を恒久的に保全可能な体制の確立が重要で、その次にデジタル化という順番ではないかと考えている。
・こうした問題意識で信州内外の研究者やアーキビストと共同研究を組んでいて、なにか手伝いえることがあれば幸いである。今後とも、よろしくお願いしたい。
（委員）
・一般の方になかなか知られていない大切な公文書館である。
・小学校等も含めて各自治体でも見学をしてもらいたいと感じる。